# 園芸療法士を目指して

1 はじめに 「植物を通して人を笑顔にする仕事がしたい」という想いから園芸療法士を目指し医療法人 白水会 白川病院 デイケアセンター春夏秋冬でインターンシップⅢを行った。インターンシップ中に利用者さんに向けて秋のリース制作の企画を考え行わせていただいた。そこで感じた反省や経験を活かし、さらにレベルアップするために卒業研究で取り組むこととした。また、園芸療法とはどのようなことをするのか、利用者さんに信頼される園芸療法士になるためにはどのような知識や経験が必要なのかを深く知るために研究に取り組むこととした。

### 2活動内容

## (1) 秋のリース制作



- ・インターンシップ中に企画を考えた。
- ・事前にシミュレーションを行わなかったので時間配分を 何度も変更した。
- ・利用者さんのオーナメントをグルーガンで取り付ける作業に集中していたため利用者さんとコミュニケーションが取れなかった。

(2)アレンジメント 試作



- ・半身麻痺の方を想定して利き手ではない手で制作しても らった。
- ・オアシスを器から 5 c m出し山型にセットしたので挿し やすかった。
- ・凸凹のペットボトルを器に使用したら持ちやすかった。
- ハサミの柄が細く使いにくい。

実施



- ・花をどこで切ればいいか分からず時間がかかった。
- ・花を挿すと器が動く
- 器が透明で緑のオアシスが見えるので器と葉の区別がつきにくい。
- ・ニオイヒバの茎が柔らかく挿しにくかった。

変更 試作2回目



- ・デザインをパラレル(真っすぐ)に挿すアレンジメントに変更した。
- ・器が小さく挿しづらい。
- ・花を密に入れにくい。
- ・花を短くするアレンジメントなので花が掴みにくい。

変更



- ・試作2回目の花の高さを揃えるデザインは利用者さんには難しいと感じた。
- ・アウトラインが凹凸でもきれいに見えるラウンドに変更した。
- グリーンは茎が真っすぐなコニファーのみ使用。

## 実施2回目



- ・花材は先に短く切っていたのでスムーズに挿すことが出来た。
- ・器を固定するためにシリコンのコースターを敷いた。
- ・コニファーの根元の細かい葉を取るのが難しかった。→取るべきだった。
- ・ 積極的に挿せていた。

### (3) 寄せ植え 試作



- ・ナデシコの根が張っておりポットから取り出しにくかった。
- ・土を入れる器を高さ30cmのバケツにしたら高く土を取りにくそうだった。
- ・植えやすい様に鉢に土を3分の1ぐらいまで入れてお く。

#### 実施



- ・土がこぼれて服が汚れるのを気にしていた。
- 葉をよけながら土を入れるのが大変だった。
- ・背が低い方は、机が高く鉢も高いので鉢の中の土が見え ていなかった。
- ・土すくいが上手く使えていなかった。
- ・虫を嫌う人がいた。

変更 試作2回目



- ・こぼれても汚れにくいカラーサンドアートに変更した。
- ・ドレッシング容器にカラーサンドを入れて行ったのでこぼさなかった。
- ・割りばしで植物の茎を挟んで容器の上に乗せて止めてい たので、両手を使うことが出来た。

実施2回目



- カラーサンドはこぼれても汚れにくい。
- ・割りばしで植物を挟み容器の上に乗せたがカラーサンド を入れると安定が悪かった。
- ・白色のカラーサンドが人気で緑のカラーサンドは不人気 だった。
- ・水が入る瞬間を興味津々で見ていた。

### 3, まとめ

今回対象者を3グループに分けて行ったが、サポートに差はあまり感じなかった。症状によって限定するのではなく、個々の経験や知識、現状によってサポートすることやコミュニケーションの仕方が異なると思った。

医療法人 白水会 白川病院で介護士兼園芸療法士として内定が決まったので、資格を取り信頼される園芸療法士になるため、対象者によって出来ない事や出来ない事に対してネガティブにならないようなコミュニケーションやサポートの仕方の選択肢を増やしたい。今回の経験を活かし対象者によって工夫するところを考え、1人でも多くの人が笑顔になってもらえる様な園芸療法士を目指したい。